Sound Devices SL-2 (Wisycom MCR54) クィックガイド

※ Firmware アップデートにより仕様が変わる場合がございます。

この資料は右の QR コードからダウンロードできます。
http://www.tech-trust.co.jp/pdf/sd/qop_sl2_mcr54.pdf

<<仕様上の基本知識>>

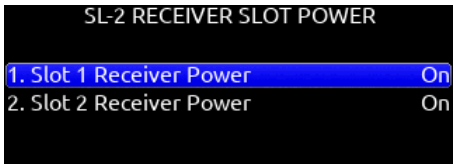
電源の入れ方

SL-2 にマウントした受信機は、8-Series ミキサーの電源を入れると自動的に受信機も起動します。受信機の電源を単独で Off/On した場合は必ず 8-Series ミキサーの電源を入れなおしてください。(SuperSlot 制御に支障が発生します。)

スロットの電源をオフにする方法

節電のために SL-2 にマウントされた受信機の電源を切りたい場合は、8-Series からスロット電源をオフにできます。

Menu > SuperSlot > Option > Receiver Slot Power



MCR54 のチャンネルをオフにする方法

節電のために Wisycom MCR54 (4ch Receiver) の Ch1,2,3,4 を個別に電源オフにすることができます。

Menu > Setup > Active RXs

MCR54 本体のボタン操作から Active Receivers 画面のチェックマークを外すと節電できます。(8-Series を再起動してもこの設定は保持されます。)

<<ソフトウェア・バグ>>

受信機の周波数変更

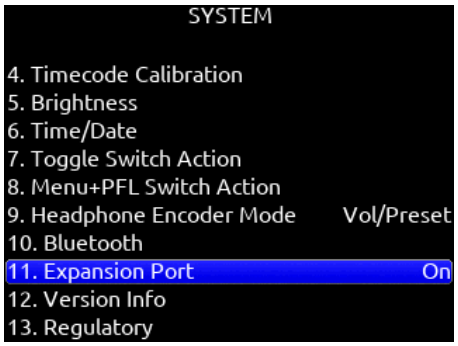
チャンネル周波数を設定するときは、GR と CH で周波数を変更してください。 周波数を直接変更するとロックが解除されて、プリセットデータが上書きされます。

プリセットデータを元に戻すには、MCR54 を PC に接続してデータを復元する必要があります。詳細は、販売代理店までお問い合わせください。

プリセットデータが上書きされます。

SL-2 を有効にする

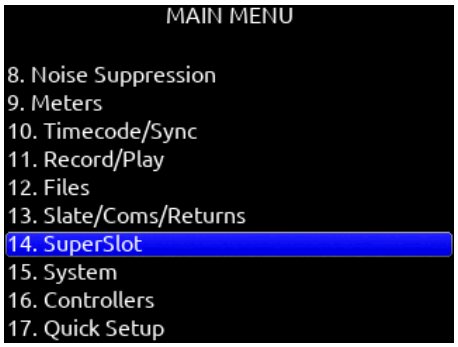
1) 8-Series の拡張ポートに接続されている SL-2 の機能を利用するためには、Menu > System > Expansion Port で On に設定してください。

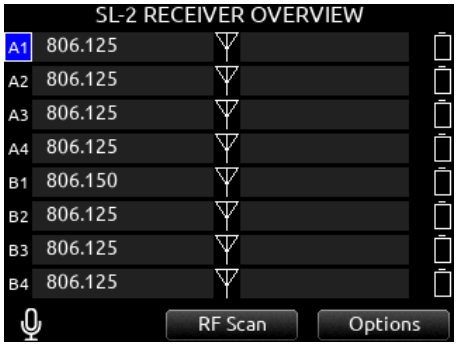


ワイヤレスマイク・レシーバーの使用

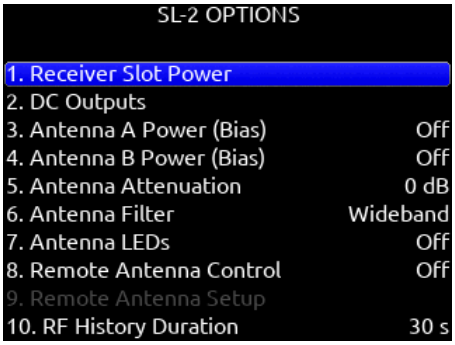
SL-2 のスロット・レシーバーを利用するには、レシーバーの電源を有効にする必要があります。

1) Menu > SuperSlot からレシーバーオーバービュー画面に入ります。

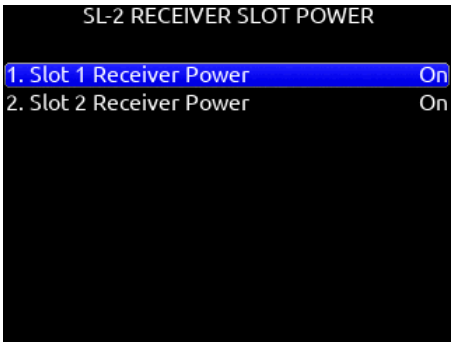




2) SL-2 RECEIVER OVERVIEW 画面の右下にある、Options を操作して SL-2 OPTIONS 画面にアクセスします。

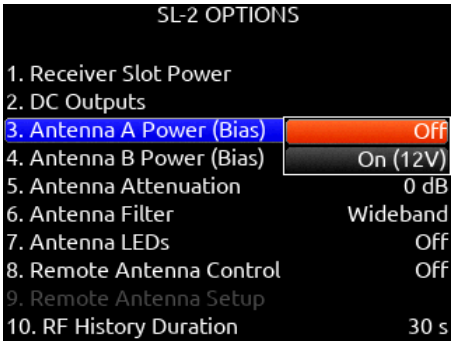


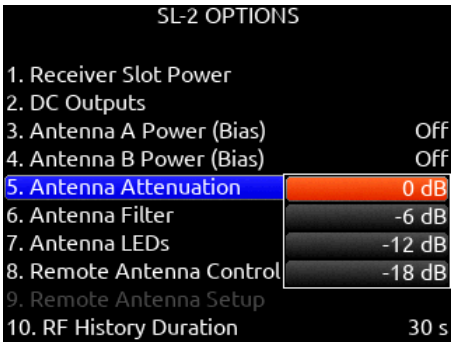
3) Receiver Slot Power > Slot1 または Slot 2 に入り、電源オプションを On にしてください。



外部アンテナの利用

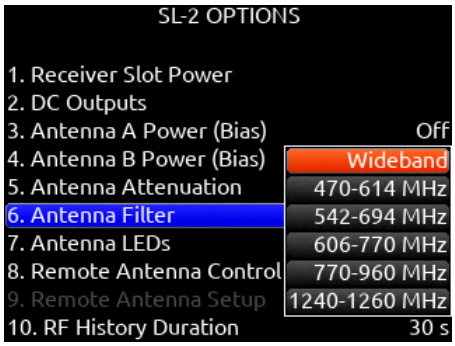
1) SL-2 に接続された外部アンテナのブースター機能を利用する場合は、アンテナ・パワーをそれぞれ On にしてください。





（つづき）

2）トランスミッターが近すぎる場合は、アッテネーションで適切な受信感度に設定してください。
（0dB がデフォルトで、-6, -12, -18dB と選択可）



3）アンテナフィルターを設定すると、安定した受信が可能となります。B 帯を使用する場合は、770-960 MHz にしてください。

ミキサーインプットにオーディオを設定

【重要】
8-Series のチャンネルインプットにレシーバーのオーディオをアサインしないと、RX 画面のレシーバー情報にオーディオレベルは表示されません。

1）任意のチャンネルの PFL を操作して、入力設定画面にアクセスします。

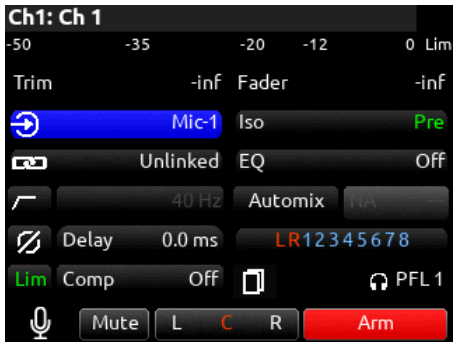
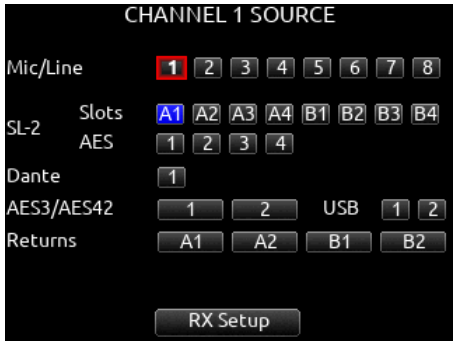


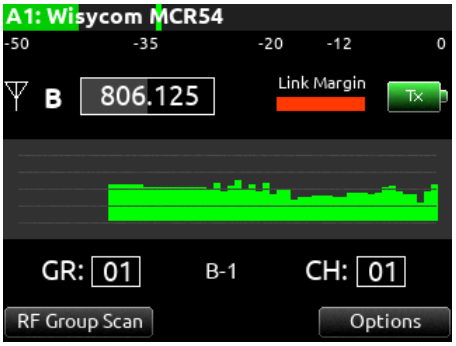
図 A



2）チャンネルソース画面で、SL-2 の入力ポートをアサインします。

3）図 A の RX Setup を操作して、アサインされたレシーバーの周波数を編集できます。

図 B



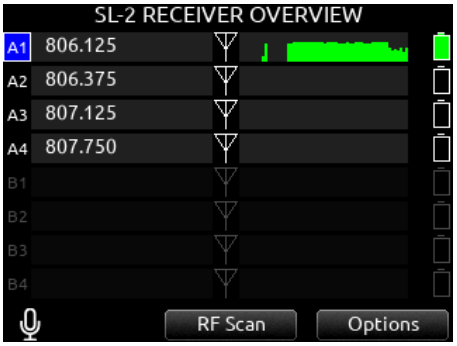
【重要】
B 帯ワイヤレスの場合、ここで直接周波数を編集しないでください。MCR54 にプリセットされている B 帯リストが強制的に書き換わります。（バグです）

B 帯レシーバーの周波数調整は、GR と CH の組み合わせで必ず設定してください。

レシーバーへのショートカット・アクセス

Menu+HP：Menu ボタンを押しながら HP エンコーダを押すと、SL-2 RECEIVER OVERVIEW 画面にすばやくアクセスできます。（Menu > SuperSlot からもアクセスできます。）

図 C



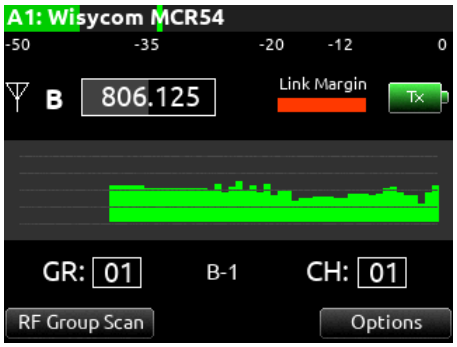
この画面で、レシーバーの電波受信状況、送信機のバッテリー残量を確認することができます。

SELECT エンコーダで青いカーソルを移動して、任意のレシーバーチャンネルの情報画面（図 B）にアクセスできます。

RF Group Scan で周波数を設定

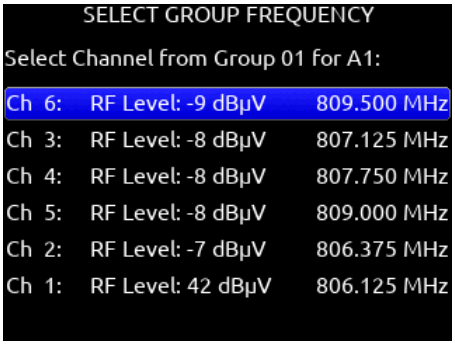
図 B の画面左下にある RF Group Scan を操作すると、グループスキャンを開始します。スキャンする前にすべての送信機出力をオフにしてください。

図 B



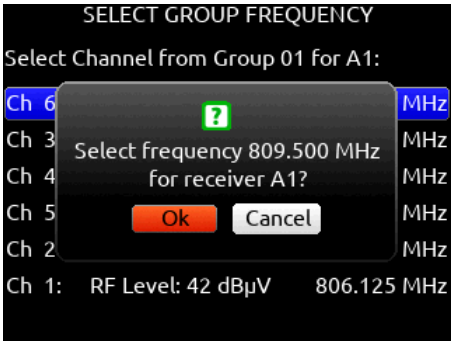
すでにスキャンしたことがあると、次のメッセージが出て、前回のスキャンデータを利用するか、再度スキャンするかを質問されます。

図 D

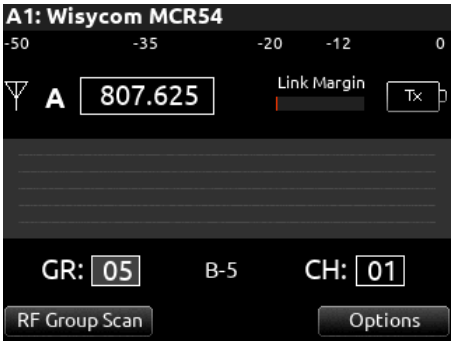


このリストは、現在 A1 に設定されている GR から電波状況の良い周波数が上からリストされています。

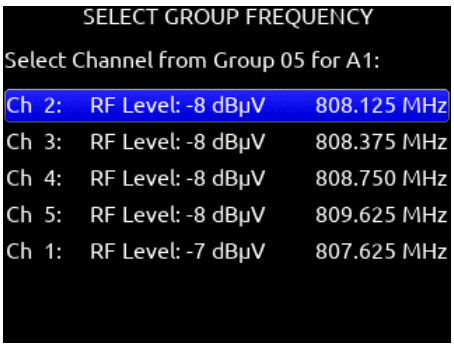
図 D では、GR:01, CH:06 に相当する 809.500 MHz にカーソルが当たっており、HP エンコーダを押すと、現在操作中の A1 レシーバーに 809.500 をアサインすることができます。



カーソルの周波数をアサインするかどうか、質問の画面が表示されます。OK でアサインされます。



SL-2 の A1 スロットを GR:05, CH:01 をアサインしてから RF Group Scan を実行すれば B 帯の GP:05 にプリセットされた周波数の中から電波状況の良いものがリストの一番上に表示されます。

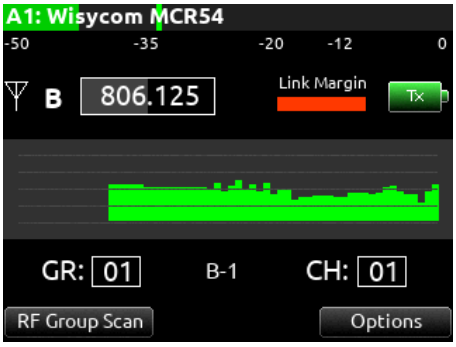


注）B 帯の GR:05 のプリセットは 5 つの CH しかないので、リストには 5 つしか表示されません。

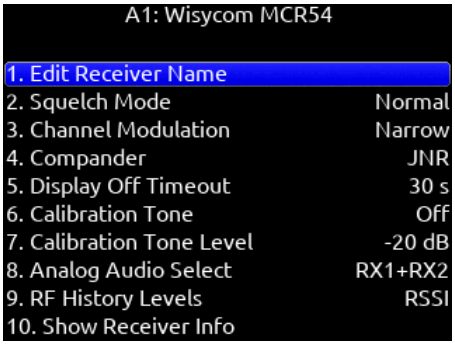
レシーバーの設定

図 A の画面右下にある Options を操作すると、現在設定中のレシーバーチャンネルに関する詳細な設定を行うことができます。

図 A



MCR54 の場合、1 台の受信機で 4 チャンネル受信できるので、A1, A2, A3, A4 ごとに設定があります。



上図で重要な設定は 2. 3. 4. です。

【2. Squelch Mode】

スケルチモードは受信機のみの設定で、'Normal' 推奨です。'Long Range'にすると Normal より遠くまで届きますがスケルチレベルが低く設定されるため雑音混入リスクが増えます。(Long Range ではトーンスケルチ機能もオフになるため、音声ミュートのレスポンスが早くなって不快な雑音が入りやすくなります。)

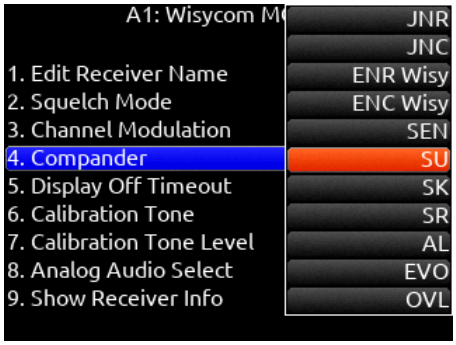
【3. Channel Modulation】(占有帯域幅)

B 帯では'Narrow'で運用してください。('Wide'はホワイトスペース帯用なので B 帯で設定すると隣接チャンネルの干渉を受けやすくなりメリットはありません。)

【4. Compander】

コンパンダーは送受信機の両方で同じ設定 ('JNR-Wisy'推奨) にしてください。

受信機を JNR に設定したら、送信機の Noise R 設定も、"JNR-Wisy" であることを確認してください。



(備考)
Compandor の設定オプションには、SEN (センハイザー) や SR (シュアーUHF-R シリーズ)、EVO (センハイザーHDX) などがありますが、他社製品のワイヤレス信号の受信に関して動作保証はありませんので御注意ください。

トランスミッターの設定 (RF Power)

送信機の RF Power 設定には、"10" mW 以外に "L10" があります。この L は、Linear を意味し、周波数を等間隔配置して運用する場合に設定します。 "10"mW 設定の送信機に比べて、"L10"設定にすると、バッテリー駆動時間が短くなります。

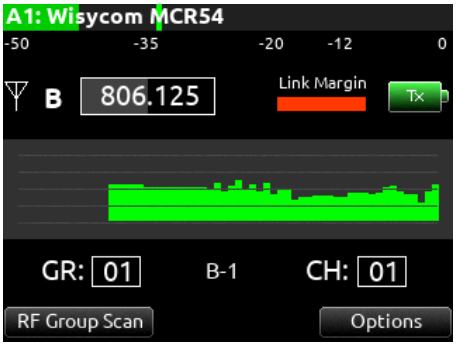
トランスミッターの設定 (PTT)

PTT 推奨設定は'Disable' (プッシュトゥトーク無効) です。'No Data' にするとトーンスケルチ信号が無効になりトランスミッターのバッテリ残量情報が送られなくなります。

Link Margin について

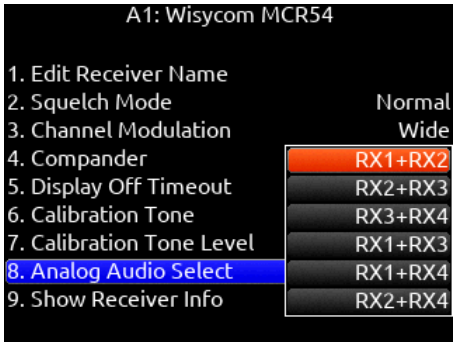
LINK QUALITY とも呼ばれ、RF 信号の S/N 比を基に送受信機間の接続状態の品質を示しています。

図 A



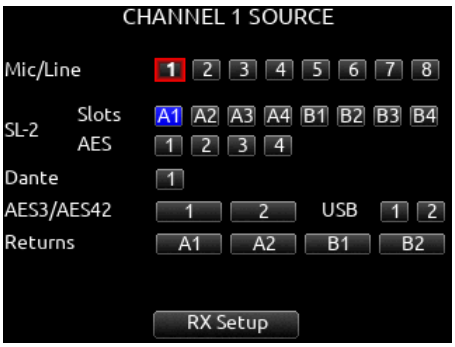
MCR54 のアナログ出力

MCR のフロントパネルには TA-5 オーディオ出力があります。SL-2 で、Analog Audio Select を"RX1+RX2"に設定すると、ラインレベルのアナログ信号でトランスミッターからの音声を利用できます。



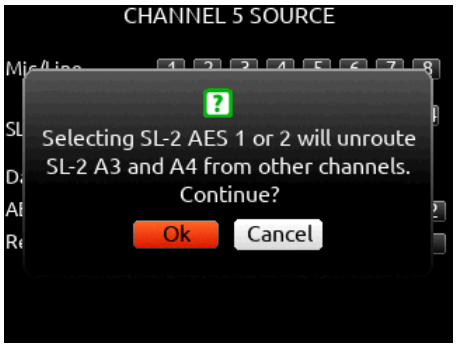
SL-2 の背面 TA-3 入力コネクタ

SL-2 は、スロット・レシーバー以外からの AES3 デジタルオーディオ信号を入力する TA-3 コネクタがあります。



ミキサーのインプット設定で、AES の[1] をアサインすると、SL-2 背面にある AES Inputs 1,2 表記の TA-3 に入力された信号を利用できます。

SL-2 の利用できるオーディオ信号数は最大 8 です。例えば、SL-2 で 2 台のスロット・レシーバーMCR54 を介して 8 基のトランスミッターを利用中に、TA-3 入力信号をアサインしようとすると、レシーバーのオーディオが 2 つ解除される旨のメッセージが表示されます。

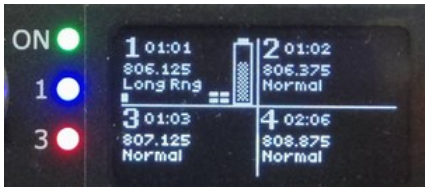


故障と思う前に…

レシーバーの音がミキサーに入らない。

1. 8-Series の電源が入った状態で、MCR54 レシーバー電源を切らないでください。SL-2 とのコミュニケーション障害により動作不良を起こします。

2. レシーバーでスケルチ機能が働いているかもしれません。MCR54 のディスプレイ横の LED の色を確認してください。青(ANT-A)か緑(ANT-B)は正常ですが、赤の場合スケルチが働いています。



8-Series 画面の Squelch Mode を、Long Range に設定して音が来る場合は、受信電波状況の改善が必要です。

3. MCR54 本体の 3.5mm ヘッドフォンプラグを使って音を確認してみてください。Headphone メニューから RX1,2,3,4 のいずれかをソロモニターできます。